

小田原市スポーツ施設整備基本計画策定検討委員会 第5回会議 議事録

開催日時	令和6年10月16日 14:00～15:50
内 容	第5回会議：小田原市スポーツ施設整備基本計画（素案）について
場 所	小田原アリーナ 1階 大会議室
参 加 者	<p>【委員】柳澤 要氏（委員長、千葉大学大学院工学研究科教授） 川邊保孝氏（副委員長、東海大学スポーツプロモーションセンター准教授） 宮内宏人氏（小田原市自治会総連合） 片山 勝氏（小田原市老人クラブ連合会） 野田ひろみ氏（小田原市スポーツ推進審議会） 水谷尚人氏（湘南ベルマーレ前社長・オンライン参加） 安藤 恵氏（小田原市体育協会） 曾我卓正氏（小田原市PTA連絡協議会） 菊亜由美氏（公募市民） 木村 蒼氏（公募市民）</p> <p>【オブザーバー】重田健太郎氏（県西地域県政総合センター企画調整部長）</p> <p>【事務局】小田原市 小澤スポーツまちづくり担当部長 スポーツ課 穂谷野スポーツ課長、管理係 菊池係長（司会） 室橋主査、高橋主任 （株）パブリック・マネジメント・コンサルティング 川島慶之、清沢ゆうみ</p>
	<p>【司会】</p> <p>定刻となりましたので、ただ今から、小田原市スポーツ施設整備基本計画策定検討委員会第5回会議を開会させていただきます。</p> <p>私は、司会を務めさせていただきます、小田原市スポーツ課管理係の菊池でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>まず、本会議は「小田原市スポーツ施設整備基本計画策定検討委員会規則」の規定に基づき、委員の2分の1以上の御出席をいただきましたので、会議が成立することを報告させていただきます。</p> <p>また、議事録等の作成の関係で、本会議を録音させていただきますので併せて御承知ください。本日は、水谷委員につきましては、オンラインでの参加になります。</p> <p>それでは、開会にあたりまして、小澤スポーツまちづくり担当部長から挨拶いたします。</p> <p>【事務局（小澤部長）】</p> <p>この会議は第5回目であり、残すところあと一回になります。最後の会議に向けて大切な回になりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>さて、前回、私がここで挨拶した時に、鳥居陽生さんをご紹介しましたが、その後、パリパラリンピックに出場され、男子のゴールボールで見事、金メダルを取りました。小田原市出身の選手が金メダルを取ることは初めてで、先日、市役所において盛大に祝賀セレモニーを開催させて</p>

いただきました。

彼はまだ20歳ですが、競技もさることながら、今回、金メダルを取ったことで多くのマスコミなどに取り上げられ、当日も記者に囲まれたり、みんなの前で挨拶したり、報告しなければなりませんでした。お母さんに聞くと、口下手ですし、人前で話すことができなかつたのと言っていましたが、競技や多くの人に会うことによって、さまざまな意味で成長されたのかと思います。そのような姿を見ているお母さんが涙ぐんでいたのは、非常に印象深く思いました。

鳥居さんに限らず、今後もこの地から未来のアスリートを輩出できるように、それから、より多くの方がスポーツをできて、楽しめるようにするために、我々の作っている計画がそのようなものに反映できればいいと考えています。

さて、これまでいろいろな検討を進め、検討に必要な資料を用意し、皆さんに議論していただきましたが、5回目は報告書にまとめさせていただいています。まだ精度が低いところもありますが、一応、冊子形式になっていますので、ご覧いただければと思います。

その中で本日のポイントが3つあると考えています。1つは、施設ごとに、例えば長寿命化や機能移転などいろいろ設定しましたが、施設ごとの整備方針について、なぜそのような整備方針にしたかという根拠を今日はお示ししますので、それを確認していただくのが1つです。もう1つは、施設ごと、これから細かく行うべき事業がたくさんありますが、その事業をどのように進めていくかという計画を事業計画としてまとめ、優先順位の根拠付けもお示ししますので、そのあたりについて確認していただくのが2つ目です。

最後に、新たな整備施設としてパークゴルフ場とスケートボードパークを掲げさせていただきました。前回第4回会議でその2つとすることを決めさせていただきましたが、その2つを中心に今後のモデルプランをご用意していますので、そのあたりについて見ていただき、いろいろな意味で確認していただくのが3つ目です。まさにこの3つが今日のポイントではないかと私は思います。

次回は最終回であり、大きな変更は難しくなりますから、我々が示した報告案について、いろいろな意味でご確認していただき、気付いたことは何でも結構なので、今日も自由にご発言いただければと思います。今日も皆さんと活発な意見交換ができることを望んでいますので、本日はよろしくをお願いします。

【司会】

それでは、これより議事に入らせていただきたいと思います。以降の進行は委員長にお願いいたします。

【柳澤委員長】

本日もよろしくをお願いします。それでは、以後、議事進行は私が務めさせていただきます。議事に入る前に、事務局より本日の資料の確認をお願いします。

【事務局】

それでは、私より本日の資料を確認させていただきます。皆さんに事前に郵送させていただいていますが、まず本日の次第、資料1として小田原市スポーツ施設整備基本計画（素案）の冊子、資料2としてA3判の裏表、対象施設の事業計画と優先度、それから、本日、卓上配布している

資料1、基本計画（素案）の58ページ目と59ページ目の差し替え版、本日の会議に関するアンケートです。

資料1、基本計画（素案）の58ページ目と59ページ目の差し替え版については、上段に現状、下段にスポーツ機能拡張整備案の図を描かせていただいておりますが、下のスポーツ機能拡張整備案のスケートボードパークの位置がずれてしまっていたため、今回、差し替え版として配布させていただきます。

それから、ここで資料1、整備基本計画（素案）の修正をご案内したいと思います。38ページ目、「7-2 市有スポーツ施設の整備方針」、一番下の※印以降の機能性、各施設の建物、設備等の主な課題および市内スポーツ団体等へのヒアリング結果のページがP30～32になっていますが、P29～31に修正をお願いします。それから、下の収支状況は各施設の使用料推移（P18～19）になっていますが、P17～18に修正をお願いします。

続いて54ページ目です。「8-3 新たなスポーツ施設整備に関するモデルプラン」のリード文は7-4（P42～47）になっていますが、P40～45に修正をお願いします。修正は以上ですが、資料の過不足等はありませんか。

それでは委員長、よろしくをお願いします。

【柳澤委員長】

それでは、本日の次第に沿って議事を進行したいと思います。次第2、議事（1）小田原市スポーツ施設整備基本計画（素案）について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

スポーツ課の穂谷野です。それでは、私より議題（1）小田原市スポーツ整備基本計画（素案）について説明させていただきます。まず、資料1をご覧ください。前回第4回会議までは、まず各施設が抱える課題を整理し、計画策定の基本的な考え方である基本方針、さまざまな課題に対応するための実施方針をまとめました。さらに、基本方針や実施方針に基づき、施設の利用状況や利用団体のニーズなども加味した上で、施設ごとの整備方針を定めました。また、新たな施設整備について、前回第4回会議で具体的に整備する競技を定めました。

今回の資料のポイントについては、先ほど担当部長の説明にありましたが、ポイントを3つに絞らせていただいております。資料1の目次に沿って説明しますが、先ほど述べた通り、これまでの委員会においてお示しした内容もありますので、今回の資料で新たに明記した内容に重点を置いて説明させていただきます。

なお、説明の都合上、特に後半はページが前後したり、資料1と資料2を用いて説明したりすることになりますので、ご承知おきいただければと思います。次第は1つしかありませんが、まず既存施設に関して一度説明させていただき、そこで皆さんからご意見を賜ります。その後、新たな施設について説明を行い、再度ご意見を頂きたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

それでは、資料の内容について説明させていただきます。まず、1ページ目は第1章になります。こちらでは計画策定の目的や計画の位置付け、計画期間について記載しています。次に2ページ目から3ページ目は第2章になりますが、ここでは計画の対象になる施設を記載しています。続いて4ページ目からは第3章になりますが、ここでは第2章でお示しした対象施設について、施設規模や構造、主な課題、利用者数の統計データを施設ごとの基本情報として記載しているほ

か、対象施設の利用状況や使用料収入の統計データを記載しています。

少しページが飛んで、19ページ目は第4章になります。こちらは市有スポーツ施設を取り巻く環境として、本市周辺の2市8町の公共スポーツ施設の配置状況、令和3年度に実施した市民アンケート結果の再分析、令和6年9月に小田原アリーナで開催されたイベントでのニーズ調査の結果、さらに令和5年度、6年度に市内スポーツ団体や民間事業者に行った本計画策定に当たってのアンケートやヒアリングの結果を掲載しています。

また少し飛んで、32ページ目は第5章になります。こちらはスポーツ施設の課題になりますが、所管する施設について従来から把握していた課題のほか、前の第4章でスポーツ団体などへのアンケートやヒアリングで浮き彫りになった課題を、スポーツ施設に直接関わる課題とスポーツ施設を取り巻く課題に整理しました。

次ページの33ページ目の第6章は、スポーツ施設整備に向けた基本的な考え方です。こちらでは計画策定に当たっての基本方針、基本方針を実現するために定めた4つの実施方針とその内容を記載しています。

少し飛んで、36ページ目以降は第7章および第8章ですが、こちらは今回の会議に向けて内容を精査したものになります。まず、36ページ目からの第7章は、スポーツ施設の評価と方向性の7-1市有スポーツ施設の現況評価です。こちらでは前回第4回会議で各施設の整備方針をお示ししましたが、整理した整備方針がどのような経緯で導かれたのか、その根拠をお示ししています。

まず、各施設の劣化状況などを把握するため、現況調査を実施しました。その調査結果は報告書の資料編として掲載する予定ですが、その結果から施設の安全性、機能性を評価するとともに、スポーツ庁が策定したスポーツ施設のストック適正化ガイドラインを参考に耐震性を評価しています。併せて施設の利用者数や大会の利用状況、施設の収支状況から経済性の評価を行っています。

37ページ目の図表23にお示しする通り、これらの評価結果から安全性、機能性、経済性のいずれの結果も「良」になったものが長寿命化、「良」と「劣」が混在する結果になったものは機能改修、どちらの結果も「劣」になったものは廃止も視野に入れた機能移転に整理しました。これらの結果は38ページ目の7-2にお示ししています。また、39ページ目の7-3の図表26は、縦軸が利用者数、横軸は大会・イベント件数により施設の利用実態をグラフ化しています。この結果に基づいて、図表27の通り、各施設を基幹拠点、交流拠点、地域拠点の3つに分類し、その役割を記載しています。

少しページを進めて46ページ目の第8章、スポーツ施設の利用計画です。第7章では施設ごとの整備方針を定めましたが、ここではさらに細かな事業単位について、優先度を考慮した整備計画を示しています。まず、46ページ目の8-2、図表33にお示したように、事業ごとに算出した素点に、利用実態に基づく分類による係数を乗じたもので総合点を算出しています。

各事業の素点の算出方法は、47ページ目の図表34にお示ししています。図表34は、安全・機能性、利用特性、経済性の3つの指標にそれぞれ判定項目を設定しています。合計7つの判定項目のそれぞれについて状況に応じた配点があり、さらに配点項目ごとに設定した係数を乗じて素点を算出しています。47ページ目の図表35の通り、総合点によって優先度を決定し、その区分ごとに事業の実施時期を決めることとしています。

事業計画を整備したものが別添の資料2、A3判横になります。資料2をご覧ください。字が

小さくて申し訳ありませんが、この計画表は、一番上の行の真ん中あたりにある優先度指標という緑色の素点に、青色の利用分類の係数を乗じて総合点を算出しており、総合点と政策的事項を考慮した上で、実際の優先度を最終的に決定しています。資料2の説明は後ほど行わせていただきます。

では、いったん資料1にお戻りください。資料1の48ページ目以降は、今ご説明した優先順位の考え方に基づいて作成した資料2の事業計画を施設ごとに具体的な言葉で説明しています。こちらは53ページ目までになります。

事業計画の説明に入る前に、少しページを戻っていただいて資料1の46ページ目、併せて先ほど飛ばした8-1とA3横長の資料2をご覧ください。見比べていただきたいのですが、資料2の施設名の一番上に市有スポーツ施設全般という行があります。今回の事業計画では、日常的に行う維持修繕や設備などの定期的な保守点検のほか、各設備の見直し、利用料の見直し、駐車場の有料化、ネーミングライツなどによる新たな財源の確保の事業は、特定の施設ではなく、市有施設全般に関することから、個別の施設ごとに位置付けず、全般に関わる事業としてまとめて位置付けることとしました。

では、個別の事業計画について説明させていただきますが、お時間の都合もありますので、資料2で主なところを説明させていただきたいと思います。資料2をご覧ください。優先度を見ていただくと、特に優先度の高いA評価が非常に多くなっています。その中でも利用者ニーズに対応した改修等については、点数の高いものが多いため、改修に向けて早い時期から取り組んでいかなければいけないと考えています。

また、優先度Aのうち、政策的事項に予算優遇期間と記載がある小田原アリーナや小田原テニスガーデン、具体的な規模でいうと、環境に配慮した設備への改修・更新は、太陽光パネルなどの再生・省エネルギー関連設備の導入に関するものです。これを実施する場合は、財源となる国庫補助金、国の補助金の期限の兼ね合いもあり、早い時期に取り組むべき事業として位置付けました。

また、優先度Cは、中長期以降に実施と位置付けたものになりますが、城山庭球場と小峰庭球場です。城山庭球場のコートや管理棟の再整備を行った後、小峰庭球場の機能を城山庭球場へ統合するとともに、城山庭球場は指定管理者制度を導入することにより施設管理の効率化を図りたいと考えています。

同じく優先度Cの城内弓道場、それから、裏面の一番下に（新）その他スポーツ施設とありますが、特に（新）その他スポーツ施設では、公共施設に準ずる施設として位置付けた小田原スポーツ会館について触れています。小田原スポーツ会館は老朽化がかなり進んでおり、将来的に代替施設の整備が必要になった場合に、小田原城史跡内にあり、さまざまな制約がある城内弓道場と統合することにより柔道、剣道、弓道ができる複合の武道場として整備を検討してはどうかと考えています。

また、これまでの会議でも優先度が高くなると想定されていた酒匂川スポーツ広場と御幸の浜プールは、いずれも優先度Aになります。酒匂川スポーツ広場は、施設を利用する団体の意向や広大な敷地の確保、整備に長い期間と多額の費用を要することなどから、現状維持しながら使用を続ける方向性とし、ただし、減災・早期復旧に向けた取り組み、復旧期間中の代替施設に関する協定は早い時期から取り組みたいと考えています。なお、酒匂川スポーツ広場の移転に関しては、完全に断念したわけではなく、引き続き代替地の調査・検討は継続したいと考えています。

御幸の浜プールは当面、現状維持のために必要最小限の修繕等を実施し、施設の延命化を図りますが、致命的な損傷が発生した場合は現施設を閉場し、速やかに新たな施設を整備するのではなく、学校や民間のプール、近隣市町のプールを代替施設として利用していくことを考えています。ただし、施設の利用ニーズの把握により代替施設では需要が大幅に賅えないと判断された際は、新たな施設整備について検討したいと考えています。

資料1にお戻りいただき、ページを少し進めて60ページ目、9章をご覧くださいと思います。こちらでは計画のフォローアップ、推進・取り組み体制についてお示ししています。計画の進捗を管理するとともに、短期計画期間の6年間で終了する前に新たな短期計画期間の取り組みを中心に計画を見直し、スポーツ推進審議会にて審議を行います。

また、事業実施に当たり、利用者や利用団体などに広く意見を求めることで合意形成を図りたいと思います。さらに、日々の生活の身近な場所である学校体育施設や街区公園などに関しては、庁内他部署との横断的な連携を図りながら、より有効な活用ができるように協議や進行管理を行いたいと考えています。最初の既存施設に関する説明は以上になります。よろしくお願ひします。

【柳澤委員長】

ありがとうございました。それでは、第7章の7-4と第8章の8-3、新たなスポーツ施設はこの後に説明がありますので、新たなスポーツ施設以外について委員の皆さまのご意見をお伺いしたいと思います。ご意見やご質問等があれば、よろしくお願ひします。

木村委員、お願ひします。

【木村委員】

小田原アリーナは、見る観点でも小田原市として重要な施設であり、実際に女子のバスケットボールの試合や湘南ベルマーレのフットサルのホームであると思いますが、その中で湘南ベルマーレのフットサルクラブは、Fリーグでトップリーグに所属しているチームです。そのようなチームが小田原アリーナをホームにしていることは、他の市町村にはない魅力であると日々感じています。

特に2022年の湘南ベルマーレの事業方針では、3分の1のパワーをかけて地域の役に立つという方針を掲げていらっしゃることから、地域に根付いているクラブだと感じます。市民が「する」観点ではなく、プロの選手やチームがスポーツを実際に競技するにあたって、小田原アリーナの改修やエンタメ化が必要だと思いますが、見る観点について、具体的にどのようなものなのかと思いました。

【事務局】

小田原アリーナは、利用者ニーズに対応した改修が点数的にも一番高くなっており、ご指摘の通り、エンタメ化については、30年近く経つ施設で、建設当初はただスポーツを「する」だけの施設だったかと思いますが、時代の変化とともにそれだけではなく、「見る」観点についてもウエイトを占めるようになってきました。

最近、フットサルやバスケットボール、バレーボールのプロリーグなどのテレビ中継を見ると、大体どの体育館も大型モニターがあったり、音響や光の加減でいろいろなパフォーマンスを見せたりしており、そこに関してはかなり劣っていることがあることは十分に承知しているため、設

備構造的にどこまでできるかは分かりませんが、その辺の可能性は探っていきたいと思います。また、体育館のフロアもかなり傷んできており、それがいろいろな競技に影響することが懸念されるため、フロアのメンテナンスや改修も視野に入れていきます。

その他、多くの方が見られることに伴って大きな課題となるトイレについては、和式トイレはまだ多く、洋式やウォシュレットが付いていない箇所が多くあるため、早々に着手したいと思います。照明はまだ水銀灯を使用していますが、今年度にLED化の工事を行う予定であり、できることから少しずつ進めていきたいと思います。以上です。

【柳澤委員長】

事務局より観戦する立場から課題と対策が幾つかありましたが、私は試合を見に行ったことがないため、あまり実感がないのですけれども、木村委員の経験上、他に何か実際に観戦する上でここはこのようにしてほしいなどがあれば、お願いします。

【木村委員】

先ほどお話しした湘南ベルマーレだと、サッカーのホームスタジアムが平塚市にあり、例えば平塚駅を出ると、駅構内にショップがあったり、試合当日はバスの本数が増えたり、試合がない日でも選手の応援の旗が日頃からあり、常にそのクラブを感じられると思います。やはりプロのスポーツクラブが実際に小田原市にあることは本当に魅力的だと思いますので、フットサルとサッカーでは認知度の差があると思いますが、認知度がまだ低いからこそ、より市町村と連携が深くできるのではないかと思います。

【柳澤委員長】

設備の強化というよりは、もう少し利用者が楽しめる仕組みや利便性を高める仕組みをきちんと取り入れた方がいいのではないかとのことかと思えます。ありがとうございます。他に何か関連することもいいですし、施設全般でも。宮内委員、お願いします。

【宮内委員】

先ほどの説明になかったところもありますが、簡単なものから聞きたいと思います。まず、2ページ目の対象施設12番、13番、14番は「みどり公園課」になっていますが、その理由は何でしょうか。スポーツ施設であれば、「スポーツ課」でいいのではないかという単純な考えです。

それから、4ページ目から12ページ目に各施設の利用者数が入っていますが、直近2年ではなく、直近5年、プラス5年おきぐらいで、開業当時からどのようなトレンドになっているか、増加傾向なのか、下降傾向なのか、できればトレンドが見たいです。2年では分かりませんし、参考資料でもいいので、トレンドの分かる数字があれば、より理解しやすいです。

それから、14ページ目の施設の利用状況は、スポーツ利用者数が105万6,000人とあり、それ以上、上回っていると書いてありますが、そもそも目標が低かったのではないか、目標の決め方はどうだったかが気になりました。

17ページ目に施設使用料収入とありますが、これは私がいつも言っているように、収入はともかく、維持管理費がどのようになっているかは気になります。今まで何回か検討委員会に出席していますが、使用料金がパッと出てきたのは今回が初めてなので、気にされているかと。そうで

あれば、原価も気にした方がいいのではないかと。維持管理費はどのようなものでしょうか。

それから、19ページ目に市有スポーツ施設うんぬんとありましたが、先ほど木村委員もおっしゃったように、小田原市のみならず、2市8町という大きな枠の中でスポーツ施設のすみ分けができるといいかと。当然、移動距離は長くなってしまいますが、それに特化したスポーツ施設をつくる形でやればどうかと。2市8町で1回、横の連絡を取ってもいいのではないかと思います。

33ページ目の下のグラフに競技力向上とあります。先ほど担当部長がおっしゃったように、小田原からオリンピック選手が出ました。そうすると、スポーツ施設の目的そのものがオリンピック選手になりたいがためにそこへ行くのか、ただ単にスポーツを楽しみたいから行くのか、目的によってスポーツ施設の難しさといいますか、立派なものをつくらなければいけません。

私は昔、体操をやっていましたが、今の体操の鉄棒は、すごいと思います。なぜかという、マットがすごくふかふかで、鉄棒からすっ飛んでも首の骨を折ったりしないからです。昔はあのようなマットがなく、今よりも薄く固いウレタンのマットなので、高度な技を覚えようとしても危なくてできませんでしたが、今はできるようになっています。オリンピックやパラリンピックを目指す人が使いたい施設は、安全に対応する高度な練習機材が必要になる一方で、楽しみたい人はそこまでは要りませんので、どちらを目指すかは前から話していて気になったところです。

39ページ目、利用者人数と大会・イベントの件数のグラフを載せていますが、先ほど少し出ていたように、縦軸は利用者数でいいですけども、横軸は例えばテニスなどのスポーツの内容にすると、どのようなグラフになるのかと。人数が多くてテニスがあり、人数が少なく何とかがあるとすれば、どの競技にスポットを当ててやるといいかが見えるのではないのでしょうか。これはただ単にイベント・大会の件数ですから、実際の競技の中身ではありませんので、層別のグラフの項目を考えていただければいいかと思います。

少し戻って、37ページ目に「良・良」と「良・劣」、「劣・劣」の三つがあり、私はここしか見ないのですが、真ん中の機能改修は安全性を取るか、経済性を取るかは評価できません。どちらかが「劣」であれば駄目だと。では、どちらなのかと。安全性が「劣」だから駄目、経済性が「劣」だから駄目と、これは一緒になってしまっていますから、もう一回、整備方針の分類は見直した方が良い気がしないでもないです。

それから、47ページ目の図表34に係数が3、2、2とありますが、係数はどのように決めたのですか。例えば経済性が1、当然、安全性が大事なので3になっていると思いますが、評価の係数の決め方はどのような基準で決めているのでしょうか。最後に資料2の枠のタイトルに施設名、具体事業、実施方針とありますが、実施方針はどのようなことを意味しているのかが分からなかったので説明していただきたいと思います。長くなってしまい、申し訳ありません。以上です。

【柳澤委員長】

細かなご指摘、ありがとうございます。事務局は答えられる範囲でお願いします。

【事務局】

いろいろなご質問、ありがとうございます。答えられる範囲で回答させていただきます。

まず2ページ目の一覧は、1番から11番がスポーツ課の所管、12番から14番はみどり公園課の所管と、現在の所管課を掲載しました。学校体育施設は、学校の所管は教育部になりますが、グラウンドに3校ある運動照明設備はスポーツ課が設置しているため、スポーツ課が所管していま

す。学校プール開放について、プールも学校の施設であることから、教育部という記載になります。そして18番は準ずる施設として、小田原市事業協会と掲載させていただきました。

それから、目標設定は飛ばして、17ページ目に使用料収入があり、維持管理費に関しては、こちらは冊子にしていますが、資料編も整理する予定を考えており、見せた方でいいものがあれば、本編か、資料編にそのような推移を載せたいと思います。

19ページ目の2市8町の関係は、現に2市8町広域利用でスポーツ施設を同一料金で利用できる体制はできていますし、意見交換ではないですが、所管課内部ではざっくりばらんなやりとりがこれまでできていなかったため、そのようなつながりは何らか持っていきたいと思っています。

競技力向上に関しては、競技力向上なのか、スポーツに親しむことを目指すのか、どこを目指していくのか、どこに視点を置くかですが、なかなか難しいと思っています。競技力がハイレベルの方のベースに合わせるかは、こちらもしっかりと答えが出ていないため、次回までには見極めたいと思います。

資料39ページ目はどのような見せ方がいいかというご意見を頂きましたので、改めて検討したいと思います。現況評価も、機能配置の評価判定も分かりづらかったところがあるかもしれませんので、内容については見直したいと思います。資料2の実施方針とは何かとのことですが、こちらは資料1の34ページ目と35ページ目の基本方針を実現するための実施方針を四つ決めましたので、1から4のどれに当てはまるかをお示しました。私からは以上です。

【柳澤委員長】

係数は47ページ目ですね。

【事務局】

47ページの係数は、上から順番に3、2、1と下ろしていますが、やはり安全・機能性は最も重要であるため、3を付けました。3、2、1と、1段階ごとに上げて、3までのポイントで分けたと考えていただいた方がいいのですが、安全・機能性は何よりも大切なため、3ないし2、利用特性はその次に大切だろうと。経済性はもちろん大切ですが、安全性と利用特性に比べれば少し落ちてしまうという考えを持っているため、1と整理しました。

それから、目標設定がもともと低いのではないかとの話がありましたが、今の総合計画で生きているものについて設定した時にこのような目標設定をしており、結構前の目標だと思っています。今まさに市長が代わり、総合計画を新たに作り始めますので、その中での目標設定はこれから出てきますが、現時点では現状の目標設定ですから、それを記載させていただいています。すみません。消し込みが全部できませんでした。

【宮内委員】

今の回答を受けて、先ほどのみどり公園課とのすみ分けの問題は、現状の所管が書いてあるとのことですから、これからどのようにするかは今後の検討に入るかと思っています。それから、維持管理費については資料編に入れるかどうかとの話だったので、ぜひ入れていただきたいと思っています。

2市8町の件については、行政がまたがるため、なかなか素直にはいかないと思いますが、逆に小田原市が主体となり、県西でこのようにやるとい議論の場をつくっても損はないかと。そ

の中で先ほど出たようにパラリンピック、オリンピックを目指す方を育てる施設を2市8町でドカンとつくるなど、夢がある計画になるのではないかと思います。それから、当然、安全第一であることは十分に理解しますが、係数の決め方は難しいですね。その辺はうんぬんありますが、そのような形で理解しました。ありがとうございました。以上です。

【柳澤委員長】

ありがとうございました。今議論のあった38ページ目の「良」・「劣」は、意外と単純といいですか、「良・良」が長寿命化、例えば城山庭球場は機能が「劣」で機能改修ですが、レベル感としてどれぐらいの「劣」なのか、どれぐらい「良」なのかはあると思うため、組み合わせだけで単純にはっきり整備方針を決めてしまっているのかという気がします。

先ほど宮内委員がおっしゃったように、経済性、安全性はだいぶ違いますが、経済性が「劣」で、安全性は「良」、逆でも同じようなことがあり、係数は違いますが、少し重み付けがあるのかと思います。取りあえずこのような方針でもう少し細かく見て、ケース・バイ・ケースで対応していく話かと思いますが、意外とざっくりと「良」・「劣」で決めていることは私も少し気になっています。関連することでも結構ですが、何かありますか。

野田委員、お願いします。

【野田委員】

事務局に確認したいのは、15ページ目の利用者数と大会・イベント件数です。昨年度はイベントがかなり増え、また、湘南ベルマーレさんも頑張っているから、利用者数が多くなっていると掲げられていますが、小田原市民の利用者とどのように分けていらっしゃるのでしょうか。

ただ単に利用者が増えれば良いという目標なのか、どちらなのかと、心配になりました。一応、見るスポーツだけではなく、目的が1ページ目に書かれているように、生涯スポーツ社会の実現を目指しているとなっていますので、実際に使っている方々は市民の方が多いかを把握されているのかお伺いしたいと思います。

【柳澤委員長】

いかがでしょうか。

【事務局】

有料施設だと、市内料金と市外料金を設定する場合がありますし、中には無料施設も当然ありますが、申請受け付けや予約受け付けの段階で市民と市外の方の数字を細かく全て把握できているとは言い難いと思います。具体の人数について、調べようと思えば調べられますが、今のところ、そこはあまり考えていません。また、なかなか難しいと思います。例えば大きな大会・イベントをした場合に、観客の方に市内ですか、市外ですかと、一人一人聞くことは難しいです。ICタグがあり、マイナンバーカードなどでできれば違うかもしれませんが、そこまではいけていません。もちろん把握したい気持ちはあります。

【野田委員】

スポーツ&レクリエーションフェスティバルでアンケートを取っていらっしゃいます。結果について、40代、50代の方が多くアンケートに答えられています。全国的な40代、50代の運動実施率は低いではないですか。実際にアリーナの日中を見ても、そのような方々がやっている姿は見たことがなく、全く年齢層が違うところでアンケートを取られているので、疑問に思いました。

【柳澤委員長】

ありがとうございます。先ほど宮内委員も指摘されていたように、令和4年と令和5年の2年間だけのデータで単純に比較すると、4年より5年の方が全体的には増えている感じですが、コロナ禍が入ったりして少しレギュラーな感じはするものの、何となく徐々にトレンドとして増えているのか、意外ともう少し波があるのか、施設によって違うのかは確認した方がいいかと思えます。

もう一つ、老朽化など施設の状況と利用は、どれぐらいリンクするのですか。意外と古くても立地が良くて便利であれば利用するので、整備したところで利用率が劇的に変わるものではないのか、そこが危なさそうだから、利用を控えようという心理が働いているのかを含めた分析も必要という気がします。学校プールだけは利用者が10倍ぐらい増えています。これは何か理由があるのですか。この辺は数字的に気になる部分があります。

【事務局】

学校プール開放の人数の比率にかなり増減がある点について、学校プール開放は各学校と各PTAに夏休みのプール開放をやるか、やらないかを判断していただいております。実施された場合にスポーツ課が費用を助成させていただいております。こちらはコロナ禍において全校で実施されなくなり、ゼロになりました。

コロナが落ち着いてきたところで実施しようかと言っていたPTAから少しずつ復帰したり、もしかしたらコロナを機にやめようと思っていたりするPTAが出られているかと思いますが、過渡期で学校数が年によってばらつきはあるため、数字も変わってきている状況です。以上です。

【柳澤委員長】

分かりました。関連することでも、別のご指摘でも結構ですが、他に何かありますか。安藤委員、お願いします。

【安藤委員】

プールの件が出たので、プールのお話をしたいのですが、学校のスイミングプールは短水路、25メートルプールです。今まであった小田原の市営プールは50メートルプールであったため、一番深いプールで大会を開催していました。真ん中のBプールは50メートルありますが、深さが足りないことと飛び込み台がないので、競技ができません。競技人口といいますか、健康増進などのプールはありますが、競技をするためのプールが2市8町にはありません。50メートルプールを使いたければ、藤沢まで行かないと使えなかつたりします。

今回、世界選手権はイタリアで開催されますが、小田原市の岩淵立歩さんというフィンスイミ

ングをやっている方が日本代表で行っています。ただ、フィンスイミングをやるにも深さが足りないプールですし、長さは25メートルであるため、小田原市としてはやはりそのような競技、プラスチックの競技を考えていらっしゃると思います。たぶん学校のプールやスイミングのプールを代替えとして使うことは、健康増進のためのプールのみを考えていらっしゃるのでしょうか。

【事務局】

プールに関しては、先ほど方針で少し触れたように、御幸の浜プールはA、B、CのうちCプールに亀裂等があり、AプールとBプールで運営していますが、いずれにおいても今よりひび割れをしたり、ろ過機やポンプが壊れたりした場合は今のところ、いずれ再建することを考えていません。先ほど言ったように、新たにすぐプールを建設する考えは今のところないため、屋外か屋内かは分かりませんが、民間や学校、2市8町のプールを使うことを考えています。そうすると、当面は競技性を持った設備重視のプールは想定していません。

ただし、先ほどお話ししたように、そのような状況にあってもやはりプールが必要だ、プールを作ってほしいというニーズが高いことが分かった段階では、新たに作ることは考えなければいけないかとは当然思っています。その時に先ほどの宮内委員のご指摘ではないですが、競技用なのか、楽しむかによって50メートルか、25メートルなのかは変わってくると思います。それはその段階での議論になるかと思しますので、現時点では当面、安藤委員のご指摘のような考えは持っていないというお答えになるかと思えます。

【柳澤委員長】

作るプロセスも意外と重要ですね。改修後、利用者がこれでは使えないと感じてしまうこともありますので、ニーズをどのように拾っていくかです。機能移転や廃止で今まで使っていたものが使えなくなった時は、どのようにニーズをくみ取っていくか、逆にどれくらいのニーズがあればこれをやるのか判断しなければならぬと思います。一部なのか、少数を無視するのはなかなか難しいと思いますが、市場原理でいくと、ニーズが非常に高いものに関しては整備しなければいけません。マイナーな場合は近隣市町の施設を使ってもらえることもあるかもしれません。その辺のルールといいますか、どのように整備していくか、どのようにニーズを吸い上げていくかという仕組みをつくっておかないと、何となくそのまま流れて結局、できなかったとなるかと思えます。

曾我委員、お願いします。

【曾我委員】

分かりやすい表にまとめていただいて、ありがとうございます。冒頭の今日のポイントで事業計画の順位付けの根拠の確認というお話があったかと思いますが、資料2の表では、単純に優先度Aがたくさんあり過ぎるので、もう少し絞り込みを行った方がいいのではないのでしょうか。優先度がほとんどAなので、小田原市ではAの中で最も優先順位が高いものはどのあたりかを伺いたいと思います。お答えできる範囲で教えていただければと思いますので、よろしくをお願いします。

【柳澤委員長】

Aの中でもすぐに改修や修繕と書いているものと調査や準備と書いているものがあり、同じAでも「すぐに始めるもの」と「計画をきちんと練ってからのもの」がありますが、同じAでもA1やA2があるのですか。

【事務局】

優先順位に関してAがあり過ぎるのは、それだけやらなければいけないことが多いというところではありますが、優先度Aでもすぐに作業や工事に入らなければいけないものと、すぐに検討を始めなければならないものに分かれています。そのような意味では、事務局が考えている真っ先にやらなければいけないものは、アリーナのトイレ改修だと思っており、点数も一番高いかと思えます。以上です。

【曽我委員】

ありがとうございます。

【柳澤委員長】

そうすると、もう少しAの中身は緊急度が高いAと調査が入る。かといってBは、調査・検討するのが3、4年後になっていますが、検討は早めにした方がいいのではないかという話もありますので、この辺は少し整理した方がいいかもしれません。

宮内委員、どうぞ。

【宮内委員】

資料2の優先度Aは、先ほど私が質問した37ページ目の「良・劣」の組み合わせですよ。37ページ目を見ると、安全性と経済性の評価ではっきりしなかったという話です。38ページ目を見ると、整備方針に長寿命化は5個しかなく、あとはほとんど機能移転か、機能改修ですから、小田原市のスポーツ施設は何かしら手を入れなければ駄目です。優先順位をどのように付けるかは37ページ目の表であるならば、ぼやけているという言い方はあれかもしれませんが、もう少しめりはりをつけた優先順位の付け方を工夫しないと、今のようにAになってしまいます。

築40年、50年も経っていれば、ほとんどそのような施設ですから、Aになるのは当たり前の話であるため、どのようにもう少しきめ細かい優先順位を付けるかはすぐには難しいかもしれませんが、工夫しなければいけないかと思えます。

【柳澤委員長】

実際に全て早急に対応が必要でも、予算は承認されるのですか。スポーツ課がいきなり全部は財源的に無理ですから、優先順位はもう少し丁寧に付けなければいけないと思えます。

他に何かありますか。副委員長お願いします。

【川邊副委員長】

細かいところですが、事業計画優先度で先ほど野田委員が指摘された小田原アリーナのニーズ対応は、短期計画において2028年度までに実施する形で表になっており、これはその後、取り組

まない位置付けなのか、ここで矢印が切れてしまうと、中期以降は、基本的に再度検討して実施するのか、その辺の表現がうまくできるかというのではないかと思います。ひとまず短期計画までの実施状況、それ以降の中長期は別途、検討するのだと思いますが、この図だけを見ると、中長期は何もやらないように見えてしまう問題点といたしますか、表現の仕方は工夫された方が誤解は少ないのではないかと思います。細かい点ですが、以上です。

【事務局】

現時点でニーズに対応して改修を考える事業、例えばトイレや駐車場の整備、エンタメの対応など考えられる事業については、まず計画でいう短期間（2030年まで）の間の2028年度までに実施したいと考えていることをお示ししました。それ以降、計画は作って終わりではなく、定期的に見直していきたいと思っています。

その段階で新たなニーズ、これまで取り組んでこなかったニーズが出てくれば、反映していくことはあるかもしれませんが、いったん整備したニーズは今後、定期的に維持していかなければいけないため、個別の事業というよりは先ほど言った市有スポーツ施設の持続的な機能維持などに組み入れて、定期的にメンテナンスをかけていくと、位置が変わってくるかと思えます。取りあえず今考える課題の線表はここまで示しており、新たに出てくる場合は見直しの段階では組み入れたいと考えています。以上です。

【柳澤委員長】

短期的な部分に関して、ある程度はっきり方針が決まっている分は記載し、それ以降は少し曖昧になっているのだと思いますが、特に利用者ニーズに対応した部分は、例えば2028年、あと数年ぐらいで改修まで終わるのですよね。その後、何か出てくれば、中長期的には出てきますが、未利用エリアの有効活用という話になると、しばらくほったらかしになり、むしろかなり長期的の20年後に何とかすると、見えなくもないです。

このようなものも同時に行い、また、早くできることについて、早急に行うことで効果が高まると言っているのに、長期ではなく、色が濃くなっていません。逆にスタートが遅いものは、検討などを早くやってもいいような気がしますが、色が濃いものは早くやっていくとのことかと思えます。

他に何かありますか。菊委員お願いします。

【菊委員】

資料2に城山陸上競技場は公認競技場継続に対応した改修と書いてあり、公認競技場継続に対応したとはどのような対応でしょうか。

【事務局】

城山陸上競技場は、日本陸上競技連盟が定めた公認の陸上競技場として認定されており、1種から4種までありますが、第2種陸上競技場の位置付けになっています。公認でなければ、ここでやった記録は認定されません。そのため、開設から70年近くたっていますが、開設当初から日本陸上競技連盟の公認を取り、5年ごとの更新を継続してきました。小田原市陸上競技協会といろいろ意見交換をさせていただきましたが、やはり公認は継続していただきたいという強い要

望がありましたし、我々は今後も陸上競技場を存続させていく以上は公認を継続していきたいと思っていますので、このような記載にさせていただきました。

【菊委員】

例えばトラックの状態を具体的に何かしら修繕するというのでしょうか。

【事務局】

日本陸上競技連盟の指摘はかなり細かいことまであり、例えばウレタン舗装の所が剥がれたりするのも駄目ですし、浮き沈みがあると、下層がコンクリートになっているのですが、そこから補修をやり直したり、ルールが結構変わっているためコースの幅などが変わっています。

今回は特に棒高跳びの助走路がトラックに近過ぎるため、トラックの中に入れないと認めませんと言われました。走り幅跳びの砂はこの状態では駄目などいろいろな規定があり、それを全てクリアしなければ公認は継続できませんので、きちんと予算化し、今年度に改修工事を行いたいと思います。このような状況です。

【柳澤委員長】

審査は2028年の前ですか。審査に向けて改修しなければいけないのですよね。

【事務局】

5年に1回更新が必要ですが、今年度に切れますので。

【柳澤委員長】

そこから5年と考えるのですか。

【事務局】

はい。来年4月から5年間です。

【柳澤委員長】

これは1年ぐらいで大丈夫ですか。

【事務局】

工事自体は1年で、今回も実際の工事期間は半年ぐらいになりますが、それまでの事務手続きなども含めると、1年間の準備期間が必要になります。

【柳澤委員長】

分かりました。そうすると、2029年に審査があるので、2028年から対応し、それまで1年ぐらいで全部きちんとした状態に持っていくのですね。

【事務局】

はい。

【柳澤委員長】

他によろしいですか。次の議題もありますので、一旦次の説明に入りますが、もしまた何かあれば戻ることもあると思います。

第7章の7-4および第8章の8-3の新たなスポーツ施設について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

それでは、引き続き新たな施設整備について説明させていただきます。資料1の40ページ目、7-4をご覧ください。ここでは新たに施設を整備する競技をパークゴルフとスケートボードにした根拠、これらの競技に関する本市の実情、整備していく場合の方向性について記載しています。新たな施設整備について、健全経営の予測や競技に対する機運などから、本計画の短期期間中のできるだけ早い時期に整備できる方向性を示しています。

続いてページを少し飛ばして54ページ目、8-3新たなスポーツ施設整備に関するモデルプランです。整備に当たり、具体的な内容をモデルプランとしてお示ししています。いずれの施設整備においても整備コストを抑えるため、用地取得の必要のない公用地が候補地であること、一定規模の駐車場が既に整備されていること、また、多世代の交流が可能な場所であることなどを考慮すると、現状では上府中公園が整備場所としては最適であると判断しています。

(1) 上府中公園の整備の可能性について、上府中公園は都市公園法の規定に基づく都市公園です。よって運動施設や建築物に対して面積の要件がありますが、新たな施設を整備したとしても、法律や条例などの制限を超えずに整備が可能になります。(2) パークゴルフ場の整備概要とモデルプランについて、上府中公園の多目的広場や池の東側の整備を想定しているため、近隣市町にあるパークゴルフ場とは違ったある種の林間コース的なものになり、富士山、箱根連山、曾我山を見渡せる起伏と変化に富んだ魅力あるコースになると考えています。

なお、コースの整備に必要な芝の育成には日照を確保する必要があり、一定程度の樹木などの伐採や移植、移設が必要になりますが、可能な限り現在の公園のイメージを損なわない配慮をしたいと考えています。なお、パークゴルフ場の整備イメージとスケジュールは、55ページ目の図表36にお示ししています。また、県西地域はパークゴルフ利用者が多く、収益性も期待できるため、整備や運営手法については指定管理やPark-PFIなどによる民間連携手法を視野に入れ、より健全で持続的に運営できる手法を検討したいと思います。

続いて56ページ目の(3) スケートボードパークの整備概要とモデルプランについて、現在、スケートボーダーが利用している上府中公園内の噴水広場付近に、1,000平米以内で整備したいと考えています。周囲を圧迫感のないフェンスで囲い、周囲で遊ぶ子どもたちへの安全に配慮したいと思います。パーク内の床は、滑らかな滑走面のコンクリート舗装とし、余裕を持ってストリート系と言われるセクションやパーク系と言われるセクションを配置することを想定しています。できれば熱中症対策やコンクリートの劣化防止のため、屋根の設置が望ましいと考えています。なお、スケートボードパークの整備イメージとスケジュールは、57ページ目の図表37にお示ししています。

項目を一つ飛ばして59ページ目は、先ほど事業計画で少し触れた複合武道場の整備について若干触れています。将来的にスポーツ会館が使用不可能になった場合などの代替えとして検討することになるとは思いますが、今後の方向性としては、過去に整備計画のあった小田原アリーナ前庭

のように整備費削減のため、公用地内での整備を想定しながら施設の規模や機能をよく検討することになると考えています。

最後に、先ほど1個飛ばした58ページ目は、上府中公園の将来的な整備について触れていますが、現在、主にサッカーグラウンドとして利用している上府中のスポーツ広場は、大人が使用するサイズとしては少し狭いため、将来的にフルサイズのサッカー場となるように整備、拡張することを想定しています。

このように上府中公園内のスポーツ施設がさらに増えていくことが想定されることから、大規模イベントの開催は施設間の日程調整が最低限必要になると考えていますが、何より駐車場の増設が必要になると考えています。また、施設管理の面からスポーツ施設が増えることで、市役所内の担当所管における役割分担を明確にすることや利用者の利便性を向上させるためにも、合理的な維持・管理・運営を図る必要があると考えています。新たな施設整備に関する説明は以上です。

【柳澤委員長】

ありがとうございました。上府中公園にパークゴルフ場とスケートボードパークを整備するのだと思いますが、コスト的なことに関しては特に記載がなくてよろしいですか。相当な経費が必要になるという表現はありますが、具体的に大体幾らぐらいかかると、維持管理にどのぐらいかかるかは分からないですか。

【事務局】

経費的な話はあえて掲載していないのですが、パークゴルフ場について簡単な見積もりを取ると、大体1億円弱でできるだろうという話があります。ただ、芝に水をまいたりするための水道の配管整備なども全部入ると、範囲が広いので、1億円から1億5,000万円ぐらいはかかると想像しています。まだ正式な見積もりは取れていませんが、本当のつかみの数字ではその程度です。

それから、スケートボードについては、どこまでやるかによって金額が違いますし、スケートボーダーが使うセクションと言われるものをどの程度の物を置くかによって金額は変わりますが、底地の整備をするだけであれば5,000万円以内、恐らくセクションは高いものが数百万円、安いものでも100万円程度はするため、それを幾つ置くかによって金額は変わります。劣化防止や熱中症対策のために、例えば屋根を設けるとなれば、さらに数千万円かかるのではないかと思います。

先ほど先生からご指摘のあった相当経費がかかると言っているのは、サッカーの話ではないかと思いますが、こちらについてはクラブハウスなどまで全部整備すると、恐らく数十億円かかるかと。10億円ぐらいではとてもできないかと考えています。あそこの場合は夜間照明が付いており、新しく整備したら夜間照明はなしとはいかないでしょうから、それらの設備まで含めると、数十億円はかかるかと想像しています。その辺ははっきりしていない数字なので、報告書には記載していません。

【柳澤委員長】

恐らく全体をPark-PFIといいますか、駐車場も含めて上府中公園全体をPark-PFIで検討するのでしょうか。その場合に導入できるかどうかの事業性、そもそも受け手となる事業者がいるのか、

それによってどのぐらいの経費が削減されるのか、それから、公園の施設管理だと、パークゴルフに使うのであれば、一般の人は利用料を払って利用することになると思うので、そのあたりは少し明確にした方がいいかと思いました。何かご意見やご質問等があればお願いします。

【曾我委員】

委員長より金額ベースの話がありましたが、例えば利用者数の目標や施設整備自体の目標をより明確にした方が、これをつくる上で根拠になるのではないかと思いました。どれぐらいの利用者数を想定しているのでしょうか。例えばスケートボードパークは1,000平米以内の規模の施設ですが、どれぐらいの利用者がここに来ることを想定しているのかなどは、今の段階ではまだ検討中という認識でよいでしょうか。

【柳澤委員長】

いかがですか。41ページ目に他のパークゴルフ場の概要などが書いてありますが、ある程度の規模感や利用者数の想定なのか、そもそもどのぐらい利用がないと目標にいけないので、このぐらいは利用してもらわないとかなり赤字になるという話があるかを教えていただきたいと思います。

【事務局】

利用人数についてはまだ明確に調査できていないのですが、例えばパークゴルフ場は、41ページ目の表にあるように、中井町のパークゴルフ場と開成水辺公園は8万人、6万人ぐらいの数字です。実はここに小田原市民が相当程度流れ込んでいます。2市8町内にあるパークゴルフ場の利用人数を人口割りなどで割り返すと、小田原市民は恐らく10万人近く外へ出て行ってやっているという想像はつきます。ましてパークゴルフは、聞いた話で恐縮ですが、例えば箱根に観光目的で来る元気な高齢者の方々が遊び場所を探しており、このようなものができる、流れ込んでくるといった話もあります。

10万人いくかどうかは分かりませんが、小田原の場合は最低でも中井町の8万人クラスはいくポテンシャルが十分にあるだろうと言われていています。駐車場がしっかりあること、それから、上府中公園内という結構知られている場所にあることを考えると、10万人いくかどうかは分かりませんが、8万人以上を目標にしなければいけないかと想像します。

それから、スケートボードパークも利用人数ははっきり分かりませんが、今後、有料でできるかどうかを検討しなければいけないと思いますが、目的としてはアスリート育成目的ではなく、初心者から中級者ぐらいが使えるスケートボードパークがいいだろうと、ここを使っているスケートボーダーたちが言っています。ですから、ここを使っている方々は大勢いらっしゃいますが、そのような方々の意を汲みながら、どのような施設整備をすべきか考えなければいけないと思います。

この文章内には一切書いていませんが、神奈川県がスケートボードパークを県西地域に作りたいという話がベースにあり、水面下で調整しています。例えばスケートボードとパークゴルフの施設整備の計画自体は1年ずつずらしていますが、あえてスケートボードパークのスケジュールを1年ずらしているのは、県との調整もあるだろうということです。新たな施設整備については、かなり有益性が高いものを選んでいられるため、可能な限り早い時期に作った方が良

いと考えており、それを順番に落とすとこのようなスケジュール感になります。

【柳澤委員長】

中井町と南足柄市を合わせると、10万人を超えています。その内数を奪おうという計画ですね。うまくいくかどうかは相当魅力がないと。そもそも近い人は相当利用する気もします。

先ほどのすみ分けという話が出てきましたが、このような周辺施設と協議する必要はないのか、何となく小田原ならではの特徴を作る方がいいのか、単純に競い合う方がお互いのためになるのか、どうでしょうか。

運営の工夫だったり、先ほどの民営化は単なるコスト削減ではなく、いろいろ魅力アップの意味でも重要だったりするかもしれませんが、きちんと民間事業者が入る仕組みはできるのかと。指定管理者制度と直営が入っていますが、そもそもパークゴルフ場は Park-PFI をやっているところはありますか。うまくやってコスト的に抑え、かつ利用者もうまく誘致できているものがあれば、参考にできるかと思えます。何か他にありますか。お願いします。

【木村委員】

パークゴルフは、協会公認のパークゴルフ場とその他のパークゴルフ場で利用数が結構変わっていますが、小田原市が上府中公園に建設するパークゴルフ場は協会公認のパークゴルフ場を目指すのかと、疑問に思いました。

【事務局】

ありがとうございます。公認コースになると、公認の大会が設定、運営できるため、全国から人が来る可能性は十分にあるため、基本的にはそれを目指した方が利用者数は見込めると考えています。

それから、整備内容にもよりますが、パークゴルフ協会が認定したコースであれば、それなりに芝の管理水準などが問われ、質が高くなると考えています。また、運営費の面から考えても一定の人数が来なければいけなくなります。しかし、大会をやると、そのために練習する人たちが増え、平日も賑わっていることが十分に考えられるため、大会を運営できることは非常に効果があります。

例えば55ページ目の図表36に、仮のレイアウトを落としたものがあります。ここには中央付近に多目的広場という芝生だけの広場がありますが、ここはパークゴルフ場にするつもりはなく、今まで通り広場を使っていただきます。ですから、それを囲む形で18ホールをつくらせて回し、年に数回かは分かりませんが、もしここで大会をやる場合にだけ臨時的に刈り込んで臨時コースを設け、計36ホールで大会ができるようにしたいと思っています。

【柳澤委員長】

逆に公認というと、管理したり、先ほどのプロを養成するか、一般市民が気軽に使えるのかなど方針等も少し絡んできたりするかと思えますが、特段、整備や運営にお金がかかるわけではなく、人がたくさん来るため、収支的にはそちらの方がいいという判断ですか。

【事務局】

ありがとうございます。私も詳しく知らなかったのですが、芝の管理は非常に大変なことがあるようです。何しろ日が当たらないと芝は育たないため、木が多ければその分育ちません。ですから、上府中公園には今たくさん木が植わっており、移設や場合によっては抜かなければいけないことも少なからず出るかと思いますが、そのようなものを行ったことによって人が増え、賑わってくるのが想像できると思います。

【柳澤委員長】

特に公園利用者に対して、今まで公園を使っていたのに、これになって利用できなくなってしまうことは特段考えなくていいのですか。

【事務局】

それは誤解を解かなければいけないのですが、公園利用者は普通に公園を利用できます。パークゴルフ場を整備しようとしているエリアは、木が植わっているものの、人が立ち入らない場所です。いわば遊休地になっており、木が幾つか、草は結構茂っている状態です。

ですから、使っていない部分を活用してパークゴルフ場をつくるため、一般の人が通る散策コースや真ん中にある広場は基本的には手を加えず、今まで通り散策もできますし、広場で遊ぶことができますが、もちろんそこは今まで通りお金もかかりませんし、パークゴルフ場を使う人だけがそのコースを使う時にお金を払う仕組みになると思います。

【柳澤委員長】

今まで利用されていなかった部分を利用するイメージで、その代わり今まで生えていた木はだいぶ切るのでですね。他に何かありますか。曾我委員、お願いします。

【曾我委員】

上府中公園の有効活用は、大変素晴らしい計画だと思います。私はこの近くに住んでいるため、何となくイメージはつきますが、57ページ目に指摘があるように、上府中公園の今以上の機能拡張は駐車場の問題がかなり懸念されます。半日ぐらいでも駐車場がかなり埋まっている状況であり、特に球場やパークゴルフ場が使われ、さらにサッカーがフルサイズのコートになり、たくさんの方が来た場合に検討されるとのことですが、もし具体的な構想をお持ちであれば、お聞かせいただきたいと思います。

【柳澤委員長】

いかがですか。恐らくかなり増える想定ですよ。

【事務局】

パークゴルフについては、普通に積み上げると、大体人数が分かりますが、18ホールしかなく、4人ずつ回るため、マックス来たとしても100人に満たないです。大会運営者が十数人いるかもしれませんが、それぐらいの人数が来ます。ただ、1人1台乗ってくれば、100台ぐらいの車になってしまいます。

上府中公園が一番賑わうのは、高校野球の神奈川県予選の時に、一番車が停まると聞いています。その時は、上府中公園内の駐車場だけではなく、例えば今のスポーツ広場を駐車場にしたり、その周辺も駐車場にしたりすると聞いています。更には、以前西大友の消防分署があったみどりの広場も駐車場として使っており、そのあたりを合わせると、公園外に100台以上の駐車場が確保されていますが、高校野球の時はそれでもいっぱいだと聞いています。さらには周辺道路も混雑します。

それから、「カミイチ」といって、フェスのようなものが開かれる時も大分賑わうと聞いていますので、その時に例えばパークゴルフの大会を重ねることは絶対にやってはいけないと、私は思っています。先ほど課長の説明がありましたが、日程調整をしながら運営しないと、非常に難しいかと思います。

公園内の駐車場はまだ広げられる余地はあり、今ある駐車場の周辺を少なからず広げることができると思いますが、残念ながら、現時点でスポーツ課の担当所管ではないため、我々の口から広げますとは言えません。もしスポーツ課がここを管理するようになれば、そのようにしなければいけなくなると思いますし、建設部との調整は少しずつ進めています。

【柳澤委員長】

場合によっては立体化もあるのですか。

【事務局】

建設部とも話しましたが、立体駐車場を整備するより、周りの土地を買った方が安いと言っており、おっしゃる通りだと思っていました。

【柳澤委員長】

この辺だと、その方がいいのですね。曾我委員よろしいですか。

【曾我委員】

ありがとうございます。

【柳澤委員長】

他に何かありますか。オンラインの水谷委員は何かありますか。よろしいですか。

【水谷委員】

ありがとうございます。大丈夫です。資料を拝見してすごくコンパクトに地図の中に入るのだと思いながら、しかも需要が非常にあるという数字も出されていたので、結構ではないかと思えます。

【柳澤委員長】

ありがとうございます。他に何かありますか。木村委員、お願いします。

【木村委員】

スケートボードパークは、神奈川県としても県西地区に整備したいというお話があった中で、今回、上府中公園につくるスケートボードパークは初級者中心とのことですが、県として要請があることやこれから人口が増えることを考えると、果たして初級者中心のコースでいいのでしょうか。

初級者中心のコースになったとしても、複数のセクションがあり、例えば始めたばかりの小学生や経験の長い大学生、大人の方、様々な方が利用されると思います。レベルが違う人が集まる中で、同じパーク内で競技をするためにも、例えば時間指定にしてレベルで時間を分けたりする対策も、安全性のためには必要と思いました。

【柳澤委員長】

私はあまりこの世界に詳しくないのですが、エリアを二つに分けるのか、時間で決めるのか、時間で決めてもコースの難易度が緩過ぎるのか、先ほどの話で上級者を目指すか、一般市民を目指すかに全部つながってきますが、いかがですか。

【事務局】

ありがとうございます。初級、中級を目指した方がいいと言っているのは、ここを頻繁に使っているスケートボーダーの方たちの声です。

今年4月に山北町にスケートボードパークができたばかりで、事務局も視察し、その後も色々な話を聞いていますが、上級者用のセクションを幾つか置いていると伺いました。我々が見た感じでは、セクションの高さが少し高いかと思いましたが、それが上級者だと我々には判断できませんでした。ただ、スケートボーダーの人たちを見ると、あれは上級者用だとなってしまうようで、実際に使っている人は非常に少なかったです。折角作るのであればやはり使われる施設を作りたいと思いますし、今までもここで活動されているスケートボーダーの方たちの思いもつなげたいと思うため、初級・中級が良いと思っています。

初級や中級、もしくは上級の人が来た時に危ないのではないかという話もありますが、1,000㎡は決して狭くなく、すごく広いかというところではありませんし、置くセクションの数もそこまで多くできないかと思っているため、1つ1つのセクションの間は、それなりに余裕を持たせる必要があると思います。

これもスケートボーダーの方たちに聞くと、賑わった時はセクションの周りに待ち行列ができるそうです。少し待って自分の番が来たら滑るため、1個1個のセクションはだいぶ余裕を持って作らないと危なくなってしまう。ですから、どの程度の間隔をおけば危なくないかは、我々の判断ではなく、スケートボーダーの方たちの判断によって数や配置する場所などを決めながらやっていきたいと思っています。

【柳澤委員長】

私はこのようなものがよく分かりませんが、いずれにしてもスケートボーダーのいろいろな意見を聞きながら作るのですね。恐らく一人一人がやる感じで、例えばすごくうまい人の後に初心者がやったり、混ざってやったりしても問題ないですか。エリアを分ける必要は特にないですか。私はこのようなものに全然詳しくないのですが、後ろから突っ込まれたりしないように、慎重に

計画していただければいいかと思います。よろしいですか。

他に何かありますか、宮内委員。

【宮内委員】

先ほど上府中公園が混む話がありましたし、渋滞して車がうるさいという話がありましたが、騒音対策などはきちんとやっておかなければいけないかと。あの辺は結構道が狭く、バスが来てしまったらアウトなので、その辺はすぐにできない話だと思いますが、十分に検討していただきたいのが1つです。先ほどのスケートボードは、この図を見ると付近に住宅がないようなので良いですが、スケートボードは結構うるさく、やっている人たちは避けてやっている気がしますから、それも考えていただきたいと思います。

施設をレベルアップするのか、一般に開放するかはついて回る話ではないのですが、小田原市がつくるスケートボード場はこのような人たちを対象にしていると、はっきり言ってあげて、山北町に上級者向けのものがあるのであれば、上級者はそちらに行くと。先ほど委員長がおっしゃいましたが、2市8町がすみ分けをして施設を分散させることも1つの策かという気もするため、その辺も検討していただけるとありがたいです。騒音の話は自動車もスケートボードもそうですが、やはり近隣住民の方からやった後に出てきますから、注意していただきたいです。以上です。

【柳澤委員長】

ありがとうございました。その他に何かありますか。菊委員、お願いします。

【菊委員】

上府中のサッカーコートが広がるのはとてもいいと思っていますが、赤の点線の部分がバスケットボールコートに被ってしまっており、バスケットボールコートは縮小されるのか、それとも別にどちらかに設置されるのかは特に記載がなく、バスケットボールをやっている人たちは気になっているかと思い、お聞きしたいと思いました。

【事務局】

赤の点線はあくまでも予定であり、この点線は確かに被っていますが、被らないようにできるかどうか、調整していかねばいけないかと思います。もし被らなければできない場合、移設の工事費はサッカー場をつくるものの誤差ぐらいにしかならないため、移設は全体工事の中に含めることができると思います。ただ、一定期間使えなくなったりするなど、不便な部分はあるかもしれないため、可能な限り被らないやり方を模索しながら作っていかねばならないと思います。

【柳澤委員長】

バスケットボールコートをなくしたり、減らしたりするわけではないのですね。

【事務局】

はい。

【柳澤委員長】

今まで通りの規模は確保されます。ゲートボール場へのアクセスが確保できるように、きちんと作り直すのですね。

【事務局】

ゲートボール場は今、使われていません。ほとんどパークゴルフやグラウンドゴルフに移行しており、ゲートボール場を使っている方は最近見たことがありません。

【柳澤委員長】

ないですか。逆にここにバスケットボールコートをつくる可能性はあるのですか。

【事務局】

今は駐車場として使っています。

【柳澤委員長】

分かりました。よろしいですか。その他に何かありますか。ご発言されていない片山委員はよろしいですか。

【片山委員】

先ほどからいろいろ一流選手や普通の人を使うなどと言われていましたが、小田原市の計画の目的に『「する」、「みる」、「ささえる」の三つの視点からスポーツ振興を図る』。『目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも自らが進んでスポーツに親しめる「生涯スポーツ社会の実現」を目指しています』と書いてあります。ですから、オリンピックに出るような人や一流の人は、やり投げの選手でも外国へ行ってコーチを探したり、ボクシングの選手はアメリカでボクシングをしたりしているため、小田原市でやる時はそこまで考えてなくても、目的に合った施設を作れば良いと思います。

【柳澤委員長】

よろしいですか。

それでは、皆様のご意見も概ね出ましたし、時間の制約もありますので、意見交換はここまでとさせていただきますと思います。議事については以上になりますが「次第3 その他」、事務局から何かあれば、よろしく申し上げます。

【事務局】

特にありません。本日も多くの議論をしていただき、本当にありがとうございます。今回が第5回なので、次回第6回は最終回になります。本日、皆さまから頂いたご意見などについてしっかり反映し、最終報告案を取りまとめて皆さまに改めてお示ししたいと思います。よろしく申し上げます。

なお、今日もアンケートとして別紙をご用意していますが、この会議で伝えられなかったこと、もしくはここを離れてから思い付いたことなど、何でも結構ですから、記入してメールや直接で

もご提出していただければと思います。

そして、次回、最終会議の日程は12月23日月曜日10時から、場所は本日と同じ、この会議室を予定しています。いよいよ最終回になりますので、皆さま、よろしくお願いいたします。以上です。

【柳澤委員長】

それから、私はこの日の午後に授業があるため、オンライン参加になってしまいます。もしかしたら副委員長に進行をお願いする可能性がありますので、よろしくお願いいたします。

【川邊副委員長】

承知しました。

【柳澤委員長】

それでは、特に皆さんから何かありますか。よろしいですか。それでは、以上をもって予定していた内容は全て終了しましたので、進行を司会に戻させていただきたいと思います。円滑な議事の進行にご協力いただき、誠にありがとうございました。

【事務局・司会】

皆さま、長時間にわたりご審議いただき、誠にありがとうございました。これをもって小田原市スポーツ施設整備基本計画策定検討委員会 第5回会議を閉会します。ありがとうございました。

以上